

新版『精神的ジャパニーズドリーム』

～あとがき～

人間は、大いなる夢に向けて飛翔してゆくことに大いなる幸福と悦びと感動を感じずることを本質としている。大いなる夢を描くということは永遠の若さの象徴であり、永遠の青春の輝きである。人間は、常に大いなる夢を描きつづける限りにおいて、永遠に若さを保ち、青春を保ちつづけることができるのである。

同時に、たとえその年齢が若くとも、大いなる夢を描くことができなければ、若さの中にあつて若さの中におらず、青春の中にあつて青春の中にないといえる。

本書は私が二十六歳の時期に著述したものである。故に、その中には青春の中で大いなる夢を真剣に念い描く青年独特の輝きが満ち溢れていると思う。その中には、新鮮な感動と無限の理想と深い探究心が満ち溢れていると思う。

その意味で、本書は「永遠の青年」の書として、かけがいのない意味をもっている。本書が私の永遠の青春のモニュメントとなるだけでなく、限りなく万人の永遠の青春へのエールになっていくことができれば、この上ない幸いである。

確かに青春の日に大きく念い描いたビジョンは、完成しているとはいいいにくい所もあるだろう。さらに年齢と経験と知識と思索を積み重ねていく上で、より洗練された思想も構築しうるであろう。

しかし、それにしても、青春の日には青春の日にしか著述することのできない魂のエランがあるものである。本書の真骨頂は独りの青年思想家の青い魂のエランにあるのであり、その青い吐息の中に見つけられる新時代のビジョンにあるのである。

時として、青年は大人より偉大である。所として、人として、既に大人を超えている部分もある。しかし、多くの方は、その偉大なる

可能性を発見しえていないこともある。

故に、本書を読まれるすべての方に、どうか青年の意味というものを再認識していただきたいと切に願う。そして、一人でも多くの「永遠の青年」が、これより後、無限無数に輩出していただきたいと切に祈る。

JDR総合研究所・代表 天川貴之